

## カンボジアとなかよし

小林 聖音

横浜市立港南台第二小学校

◆実践教科：道徳、生活

◆時間数：8 時間

◆対象学年：1 年生

◆対象人数：28 名

## 指導案

## (1) 実践の目的

他国に興味をもち、異文化への理解を深める中で、自国との違いを肯定的にとらえ、楽しむことができる。カンボジアで活躍する日本人の存在やなぜそのような活動が行われているのかを知り、さらに世界へ目を向けるきっかけとなしてほしい。

## (2) 授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p>○カンボジアってどこにあるの ここはどんな国でしょう。</p> <p>○ カンボジアを探してみよう。</p> <p>ねらい カンボジアの国について知ることができる。</p>	<p>・写真を見せて、国の様子を知る。 (フォトランゲージ)</p> <p>・地球儀や地図をヒントに日本とカンボジアの位置を確認する。</p>	<p>(1) 世界地図 (2) 白地図 (3) カンボジア写真 (4) 地球儀</p>
2	<p>○カンボジアってどんな国？ ○カンボジアについて知りたいことを書こう。 ○カンボジアの子にメッセージを書こう。</p> <p>ねらい 日本とカンボジアの場所を再確認したり、カンボジアについて知りたいこと、思ったことや感じたことをまとめたりすることができる。</p>	<p>・前時の復習として、世界地図を見て位置を確認する。</p> <p>・生活に関する写真を見せる。 生活だけでなく、カンボジアに対して思ったことや感じたことをまとめる。</p> <p>・もっと知りたいことを出し合う。 ・自分の好きなものをカードに書く。</p>	<p>(1) 世界地図 (2) カンボジア写真 (3) 地球儀</p>
3	<p>○カンボジアの生活を知ろう クイズ形式で生活について知る。</p> <p>ねらい 子どもたち一人ひとりがカンボジアについて理解を深める。</p>	<p>・プノンペンの街並みをビデオで紹介する。</p> <p>・くだものについて シャカとうの模型を見せる。</p> <p>食べ物 (料理) 家 影画 ココナッツダンスの体験 (ビデオ) アプサラダンス (ビデオ) 楽器 お店 (スーパーと市場) などについて写真をもとに日本とカンボジアの違いを楽しむ。</p>	<p>(1) 写真 (2) ビデオ (3) お金 (4) おみやげ (5) 民族衣装 (6) シャカとう模型 (7) 楽器 パワーポイント</p>

4	<p>○カンボジアの学校を知ろう。</p> <p>ねらい 学校の様子を知り、自分たちの生活と比べることができる。</p>	<p>・学校に関する写真を見る。 施設・道具・教室 行列のできる～の学校の施設紹介 生活科で行った学校探検と比較して掲示する。 子どもたちの疑問に答える内容で授業をすすめる。 歌（ワットポー小学校の演奏 きらきらぼし）を聞く。</p>	<p>(1) 学校に関する写真 (日本・カンボジア) (2) 教科書 (国語、算数、生活) (3) 本、漫画 ドラえもん漫画 大きなかぶ 一寸法師 パワーポイント</p>
5	<p>○カンボジアの子どもたちはどんな勉強をしているのだろうか。 (数字、言葉) ○なぜ言葉を勉強することは大切なのか。 (夜間識字教室について)</p> <p>ねらい カンボジアの子どもたちも日本の子どもたちも勉強をがんばっていることを知る。言葉の学習が大切であることを考えることができる。</p>	<p>・実際に教科書のコピーなどをもとに算数などの問題にチャレンジする。 数字や簡単な挨拶を学ぶ。</p> <p>・水、洗剤(毒物)のラベルをはったペットボトルを用意する。 言葉が分からないと困ることを体感する。</p>	<p>(1) カンボジアの教科書 国語、算数、生活 (2) 識字教室の写真 (3) 水、洗剤(毒物)のラベルを貼ったペットボトル  パワーポイント</p>
6	<p>○ワイくん的一天 同じ年の子どもがどのような生活をしているのか知ることができる。</p> <p>ねらい 子どもたちのインタビュー集をもとに自分たちの生活と比べることができる。</p>	<p>・一日の生活の様子を自分たちの生活と比べる。 ・カンボジアの子どもたちと同じ質問を教室の子どもたちにもやってみる。</p>	<p>(1) 写真 (2) インタビュー資料 (3) ワークシート 一日の生活 将来の夢 など</p>
7	<p>○カンボジアの遊び、ゲームを体験しよう。</p> <p>ねらい 日本にないカンボジアの遊びを体験し、遊びの楽しさを感じることができる。</p>	<p>・C J C Cの学生から教わった遊びを体験する。 遊び ① クロマーおとし ② ダンダウム・スラッキーツー(反応遊び) ③ セパタクロー ④ 輪ゴムはじき</p>	<p>(1) セパタクロー (2) クロマー (3) ダンダウム・スラッキーツーに使う物 (4) セパタクローのボール</p>
8	<p>○カンボジアで活躍する人を知ろう。</p> <p>ねらい 日本がカンボジアを支援していることなどについて知ることができる。</p>	<p>・カンボジアで活躍する協力隊員の写真と彼らがどんな仕事をしているのか知る。 ・世界で活躍する日本人がいることに気づく。 佐藤さん、森本さん、伊藤さん、徳富さん、田中さん</p>	<p>(1) カンボジアのお札 (2) カンボジアで活躍する日本人の写真  パワーポイント</p>

## 授業の詳細

## ①カンボジアってどこにあるの？

まず、導入として「世界にはどんな国があるのか？」「どのくらいの国があるのか。」ということについてクイズ形式で問題を出し合った。

次に「先生が夏休みに研修に行く国はどこでしょう。」という問題を出した。問題と共に以前旅行で訪れた時に撮ったカンボジアの写真をヒントに考える活動を行った。

カンボジアについて国の名前を知っている子は2名であった。どんなものがあるのか？についてはアンコールワットを知っている子が一人いる程度で、ほとんどの子どもたちはカンボジアについて知らなかった。地球儀を見ながらみんなでカンボジアの場所を探したり、国旗についても知ったりすることができた。

## ②カンボジアってどんなくに？カンボジアについて知りたいことを書こう。

カンボジアの国旗やどんな国であるかについて本で調べた子がいたので、みんなに紹介してもらった。以前旅行した時に撮った写真なども見せて、少しだけ子どもたちにカンボジアという国について紹介した。そこから夏休みにカンボジアに行った時に小学校などに行くことを伝え、カンボジアの子どもたちに聞いてみたいこと、カンボジアについて知りたいことをまとめた。

## 子どもたちの疑問

どんな勉強をするのか。時間割が知りたい。教科書はあるのか。日直はいるのか。休み時間はあるのか。プールはあるのか。先生は何人いるのか。何クラスあるのか。1クラス何人いるのか。お道具箱はあるのか。何年生まであるのか。ランドセルはあるのか。先生はどうやってくるのか。給食はあるのか。掃除はあるのか。音楽室、体育館などはあるか。土曜日や日曜日は学校があるのか。アンコールワットはなにか。

最後にカンボジアの子どもたちにプレゼントをしたいという意見があったので、クラスのこと、みんなのすきなものを書いて、先生が届けるという活動を考えた。そして、子どもたちのカンボジアへの疑問を学習課題にその後の授業を考えた。

## ③カンボジアの生活を知ろう

夏休み明けすぐの学習だったので、子どもたちも「カンボジアはどうだった？」「日本より暑い？」「テレビでカンボジアのことを見たよ。」などカンボジアに関する話題がたくさん出ていた。

夏休み明けすぐの3時間目の授業では、早速今のカンボジアの生活について紹介することにした。パワーポイントや写真を使って以下のことを紹介した。

(生活) 町並み、1台のバイクに乗る家族、アンコールワット、家、市場やスーパー、食べ物(果物の模型)(文化的なもの) アプラサダンス(ビデオ) ココナッツダンス(ビデオとココナッツ)  
体験したもの: ココナッツダンス、影絵、楽器(竹でできた楽器)、民族衣装(市場で購入) 人形(カンボジアにいる動物) セバタクロー(ボール)



カンボジアの子どもたちへのメッセージ



アプサラダンス



しゃかとう(果物)



スーパーの様子



家族でバイクに乗る人(5人乗り)

市場で買ってきた民族衣装を着て授業を行ったところとても盛り上がった。パワーポイントを使用し、写真を見せたり、クイズを入れたりして授業を進めた。しかし、1年生にとって映像のみではなかなか集中して話を聞くのは難しいので、楽器、影絵、ダンスなどをやってみる時間もとった。

(子どもたちの感想)

ドリアンを食べてみたい。ひなを食べているのにおどろいた。アプサラダンスの手の動きがすごかった。影絵は牛の皮でできているのに驚いた。バイクにたくさん人が乗っていてびっくりした。ココナッツダンスがおもしろかった。影絵をもっとやってみてみたい。

日本とは違う文化がある国があるんだ、カンボジアって面白い国だ、というプラスのイメージで学習できるように考えていたが、子どもたちは私の想像以上に興味をもってとてもよい学習となった。写真や映像はこちらできちんと選択して使わないと学習が間延びすることもあることがよく分かった。また学習形態も活動をいろいろ工夫することが大切であると感じた。

#### ④カンボジアの学校を知ろう

生活科の“学校たんけん”のまとめのようにカンボジアと日本の小学校について比較しながらまとめた。その中で子どもたちの疑問についても(夏休み前の学習)解決できるようにした。

最後のワットポー小学校のきらきらぼしの演奏を聴いた(日本語、英語、クメール語)

学校のつくりについて

教室、保健室、校長室、職員室

登校の様子

主にプノンペンのワットポー小学校について比較した。最後に農村の小学校(日本テレビが作った学校)も紹介し、同じ学校でも場所によってちがうことも紹介した。

(子どもたちの感想)

#### 子どもたちの感想

1台の車からたくさん子どもたちが降りてきてびっくりした。学校が午前中と午後に分かれているのにおどろいた。きらきらぼしの合奏が上手だった。タイヤからゴミ箱をつくっているのに驚いた。休み時間にゴムだんやおにごっこをして遊んでいた。学校で朝ごはんを食べたり、文房具を売ってるなんてすごい。



朝食を買う子どもたち



車で登校する子どもたち30人くらい乗っています。



カンボジアの子どもたちとの交流の様子



1年生の教室



ゴム跳びで遊ぶ女の子たち

⑤カンボジアの子どもたちはどんな勉強をしているのだろうか。

○1年生が勉強すること

1年生の国語、算数、生活科の教科書を見せた。また、農村の小学校では、教科書が足りなく、学校に教科書を置いて帰っているという話もした。算数などはちょうど同じところ（水のかさ）を勉強しているということが分かり、子どもたちも楽しみながら問題を解いていた。

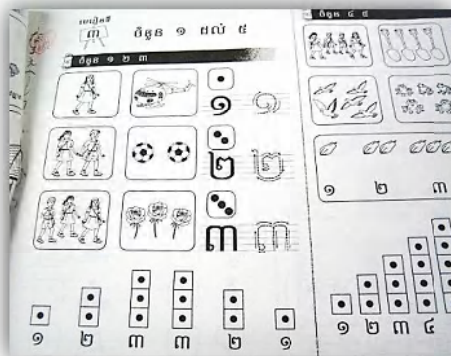
カンボジアの子どもたちの学校生活や言葉が載っている絵本も紹介した。

○どちらのペットボトルを飲む？水それとも洗剤（毒物）

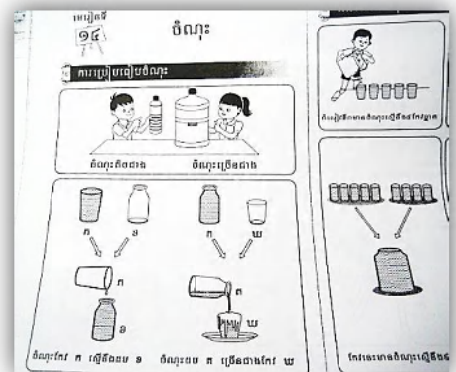
字が読めないことはどんな困ることがあるか、子どもたちに体験してもらった。ペットボトルに水と洗剤（毒物）とクメール語で書いたラベルを貼った物を子どもたちに見せた。「みんなならどちらを飲む？」と尋ねたところ、「字が読めなきゃ分からない」「嗅いでみよう。」「飲んでみたらいいよ。」「そんなことをして洗剤（毒物）だったら病気になるってしまうよ。」などいろいろな意見が出た。なんとなくではあるが、字が読めることは大切であるということを理解していた。そして最後に大人になっても字が読めない人がいるカンボジアでは識字教室があるということを紹介した。

○夜間の識字教室

トンレサップ湖近くの識字教室を見学した様子を紹介した。いった時期が夏休みということもあり、生徒の多くは子どもたちであったが、中には50代の女性が学んでいた。読み書きができない大人の存在は子どもたちには理解するのが難しかったが、一生懸命学習する映像は子どもたちも学ぶところが多かった。



カンボジアの教科書 数字練習



カンボジアの教科書 算数水のかさ



夜間の識字教室の様子



識字教室で学ぶ50代女性



みんなで使っている教科書

子どもたちの感想

教科書が日本のものと違って色がついていないのに驚いた。

カンボジアのあいさつやことばをおぼえたよ。

大人で字が読めない人がいるのに驚いた。

夜遅くに、勉強している子がいっぱいいるんだと初めて知った。

## ⑥ワイくんの日

はじめに、カンボジアの田舎に住むワイ君の一日の様子を紹介し、それから自分たちの一日の生活を振り返った。

- ・ なまえ ワイクン
- ・ とし 8 さい
- ・ すんでいるところ むら
- ・ かぞく 3 にんきょうだいで 5 にんかぞく
- ・ いちにち
  - 6 : 00 おきる、あさごはん
  - 7 : 00 ~ 11 : 00 がっこうに行く
  - 12 : 00 がっこうからかえる ごはんをたべるひるねをする  
あそぶ○きのぼり○じてんしゃ○かくれんぼ
  - 6 : 00 いえのおてつだいよるごはんおふる
  - 8 : 00 ねる



ワイクンの写真と共に紹介

次にカンボジアの小学生へ質問したことをいくつか紹介した。(将来のゆめ、なぜ学校に行くのか、大切なもの、今ほしいものなど。)

自分のアンケートと比較するのは1年生には難しい部分もあったが、カンボジアの子どもたちが日本の子どもたち(自分たち)と似ている部分や違う部分があることを感じていた。中でも学校が午前中で終わってしまうこと、外遊びが多いことに驚いていた。都市に住む1年生の女の子のインタビューも紹介したところ、将来の夢がウエイトレスであることにびっくりしていた。(自分のクラスで将来の夢がウエイトレスの子がいなかったため。) 同じ1年生でも住んでいるところや国が違うと考えや夢も違うことを感じてもらえたらと思った。

## ⑦カンボジアの遊び、ゲームを体験しよう。

JICA 横浜の坂田さん山川さん、神奈川工業高校の久保寺先生に来ていただき、カンボジアの遊びをグループごとに体験した。

## ○セパタクロ

籐で編んであるセパタクロのボールを市場で買ったので、それを使ってミニサッカーのようなゲームを行った。1グループ4人で対戦した。籐でできたボールに興味しながらゲームをやっていた。

## ○クロマーおとし (はんかちおとし)

ルールは日本のハンカチ落としと少し似ている。鬼は、ハンカチの代わりにクロマー(カンボジアの伝統的な布)をもって回る。置かれ人がクロマーに気づいたら、右隣の人をクロマーで叩き、右隣の人が鬼となり続く。ハンカチ落としに似ていたが、クロマーを使うところがおもしろかったと喜んでやっていた。

## ○ダンダウム スラックユー

2チームに分かれて、線の上に並ぶ。番号を決めておき、代表の人が番号を呼びます。呼ばれた人は素早く真ん中にある木の枝をとる。相手にタッチされずに木の枝を持ち帰るか、木の枝を持っている人にタッチすれば勝ちとなる。ゲーム中木の枝がとれなくてもすぐに負けではないところがおもしろかったようだった。

## ○輪ゴムはじき

輪ゴムを床に広げる。指で輪ゴムをはじき、他の輪ゴムに重ねることができれば、2つの輪ゴムをとることができる。これを繰り返す。家にあるものでできるゲームだったので、おうちでもやった子がいたようだった。

(授業後の感想)

どれも初めてやるゲームで、とても喜んでいた。「もっとやりたかった!」という意見が多く、大いに盛り上がった。先生方がたくさんいらっしやったので、こうしてたくさん遊びを体験することができて、とてもよかった。カンボジアの勉強の中で、一番楽しかったという子もたくさんいた。

それぞれの遊びは、日本の遊びに似ているものがあることに気づいている子もいて、子どもたちにとって身近な遊びから異文化理解は広がるのだと感じた。



セバタクロー



ダンダウム スラッキー



クロマーおとし

⑧カンボジアで活躍する人を知ろう。

はじめに今まで学習したカンボジアに関するする物をクイズに出して、復習をした。その後に、パワーポイントをもとに、現地で活躍する日本人をまとめて紹介した。

○500リエル札（JICA 無償資金協力 船上より無償資金で建設された橋）の紹介

○【JICA 草の根技術協力事業 特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会】

佐藤さんのスバイアントー郡保健行政区における子どもの健康増進プロジェクト。活動現場（村）見学と活動紹介（写真とビデオ）

○アンコールワットの修復を手伝っている日本の団体の紹介

○NGO クメール伝統織物研究所 伝統の森 代表の森本さんの紹介

○青年海外協力隊 幼児教育 幼稚園などで先生や子どもたちを指導している徳富さんを紹介

村の子どもたちに歯磨き指導をしている様子をビデオで紹介

○ワットポー小学校 田中千草さん

「音楽教育を活用した教員の授業実践力向上プロジェクト」の一環として音楽教育に携わっている田中先生の様子をビデオで紹介（子どもたちの学校の様子も）

○新聞記事（クラスの子どもが持ってきたもの）

日本の大学生が使わなくなった鍵盤ハーモニカを集めて、ワットポー小学校に寄付したという記事の紹介

子どもたちの感想

- ・カンボジアと日本はすごくつながっているとわかった。
- ・日本の人がカンボジアの人を助けているのがわかった。歯磨きのやり方を日本の先生が教えているのに驚いた。
- ・日本で先生だった人がカンボジアでも先生をやっているのにびっくりした。
- ・ワットポー小学校のピアノは日本からきたものだったんだ。
- ・カンボジアの人といっしょに働いている人がいるなんて初めて知った。



村の子どもたちに歯磨き指導をしている徳富さん



森本さん



佐藤さん



寺院で村長さんに保健教育を教えている様子



田中先生



ワットポー小学校合奏の様子



日本のカンボジア支援を伝える記事

今回の研修の中で、カンボジアで活躍する日本人に会い、エネルギーをもらった。しかし、そうした人の存在を日本で知る機会は多くない。そうした現状を踏まえて、最後の学習では現地で活躍する日本人から、支援について子どもたち、保護者の方にも考える時間をとりたいたいと思い、8時間目を授業参観で行った。

はじめにカンボジアのまとめのクイズを行い、後半はパワーポイントでの紹介を中心に話を進めた。クラスの子どもが持ってきた新聞記事なども最後に紹介し、日本でカンボジアへの支援の活動を行っている団体についても触れた。

授業後に保護者の方からも、“カンボジア”という国の今を知ることができて大変勉強になった。日本とカンボジアは深いつながりがあると感じた。“カンボジア”という国が子どもたちにとって身近な存在となっていて、うらやましく思いました・・・など様々な感想をいただき、私にとっても学ぶことが多い授業であった。

### 成果と課題

カンボジアという子どもたちにとって遠い国が、今回の学習でとても身近になってきたことを授業を行っていく中で感じる事ができた。そして、毎時間たくさんの発見と、新たな疑問が出てくる授業であった。子どもたちからも「次のカンボジアの授業はいつ？」と授業を楽しみしている姿を見て、授業を工夫して考える事ができた。

今回の研修に参加し、私自身が学んだことが、授業を通して、子どもたちの学びにつながったことが大きな成果であったと思う。

子どもたちは外国語活動でイギリスの先生、国際理解教室では韓国の先生と学んでいる。カンボジアをきっかけに、そうした学習にもとても意欲的に参加していて嬉しい。テレビでもカンボジアのことがニュースになると必ず誰かが教えてくれる、そんなクラスになった。そして、多くの子が「カンボジアに行ってみたい。」「もっと



知ってみたい。」「〇〇を見てみたい、〇〇を食べてみたい。」と興味をもつことができた。最後の授業では、支援の現場にも触れ、また違った一面も紹介することができた。

授業の中で、今のカンボジアを伝える際に、写真や映像は大変効果的であった。たくさんの写真を紹介する際には、印刷した物を掲示したり、パワーポイントを使ったりすることで、より分かりやすく伝えることができた。また映像は写真とはまた違った反応があり、とてもよかった。

1年生ということもあり、パワーポイントも分量が多すぎると退屈してしまうということもあったので、授業を3つくらいに分けて活動できるようにすることも大切であると感じた。(パワーポイント、ゲーム、クイズまたは体験コーナー)

カンボジアについてなるべくプラスのイメージをもってほしいと思い、今回の授業では、あえて地雷や貧困についてについては触れなかったが、その辺をどのようにこれから子どもたちに伝えていったらよいかということも課題であると感じた。国際協力について、自分のできること、という視点での授業展開は1年生では難しい。しかし、もう少し国際協力という視点も授業の中に取り入れることができるとするならば、どんな形があるのか考えていきたいと思った。そのためには、現実的に難しい面もあるかもしれないが、今回の活動を現地の小学生と直接交流するような継続的な形で続けられるとよいのではないかと思う。

#### ◆ 参考資料

- ①現地で収集した資料、  
小学校の教科書（国語、算数、生活）  
カンボジアの地図  
カンボジアの民族衣装  
影絵  
ココナッツダンスのココナッツ  
楽器



- ②子供向けの本  
「アジアの遊び1」ポプラ社  
「カンボジアのこどもたち」学習研究社

